

# たまねぎレポート【第432号】

令和5年10月26日



## 阪南青果株式会社

### 社内報

9月の天候は、気温は全国的にかなり高く、東・西日本では記録的な高温になった。降水量は西日本の太平洋側でかなり少なかった。日照時間は、東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美で多くなった。気象庁では、9月の平均気温は平年より2.66℃高く、統計開始以来『最も暑い9月だった』と発表している。10、11月も平年を上回る日が多くなる見通しで、同庁は暖冬を予想している。10月に入ってからは朝夕には秋風を感じるものの、寒暖の差の大きい日が続いている。

気象庁の11月～1月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、東日本で高い確率50%、西日本と沖縄・奄美で高い確率60%。降水量は、東日本の太平洋側と西日本で平年並み

または多い確率ともに40%。降雪量は、北日本の日本海側で平年並みまたは少ない確率ともに40%。月別予報は次の通り。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

12月 北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。東・西日本の太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

## 野菜の市場概況

建値市場の9月の野菜の販売量は、213,886トン前年比94%(前月比102%)平均単価はkg ¥280前年比113%(前月比110%)。市場別には多少のばらつきがあるものの、総じて販売量は前年比減、前月比増。単価は前年比、前月比とも高くなっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比88%、平均単価はkg ¥222前年比109%。東京市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg ¥309前年比116%。名古屋市場の販売量は前年比95%、平均単価はkg ¥259前年比109%。大阪本場の

販売量は前年比99%、平均単価はkg¥273前年比109%。福岡市場の販売量は前年比101%、平均単価はkg¥223前年比108%となっている。

建値市場(拠点市場)の9月の玉葱の販売量は26,147トンで前年比102%、(前月比116%)、平均単価はkg¥101前年比89%(前月比96%)となっている。特に、北海物は高温障害による日焼け、病害等の進行で出荷に焦り傾向が見受けられた。市場別では、札幌市場の販売量は3,811トン前年比100%、平均単価はkg¥81前年比80%。東京市場の販売量は9,376トン前年比97%、平均単価はkg¥105前年比90%。名古屋市場の販売量は6,604トン前年比103%、平均単価はkg¥100前年比93%。大阪本場の販売量は3,887トン前年比119%、平均単価はkg¥105前年比81%。福岡市場の販売量は2,469トン前年比96%、平均単価はkg¥108前年比87%となっている。

東京都中央卸売市場の9月の野菜の入荷量は、110,691トン前年比92%。全国的な猛暑が続いた影響で、前年を大きく下回った。(旬別の前年比では上旬が78%、中旬が102%、下旬が97%)。平均価格はkg¥309前年比116%(旬別では上旬がkg¥306前年比114%、中旬が¥319前年比119%、下旬が¥302前年比112%)、となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、バレイシヨのみで前年比117%。入荷が前年比減の品目は、ハウレンソウが前年比69%、ピーマンが81%、ネギが82%、トマトが85%など14品目。価格は前年比全面高で、ピーマンがkg¥602で前年比161%、ネギがkg¥517で136%、ハウレンソウがkg¥1,045で134%、ナスがkg¥392で132%、トマトがkg¥609で130%など13品目。前年比安の品目は、タマネギがkg¥105で前年比90%、バレイシヨがkg¥134で94%の2品目だけとなっている。

## 東京都中央卸売市場の9月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	110,691	91.6	99.7	309	116.4	113.6
た ま ね ぎ	9,376	96.5	105.5	105	89.9	94.6
キ ャ ベ ツ	15,585	88.4	97.1	90	124.09	123.3
は く さ い	9,005	92.8	148.4	92	108.5	110.8
だ い こ ん	7,023	87.5	112.9	152	105.7	139.5
に ん じ ん	5,486	88.3	108.4	226	108.1	147.7
ば れ い し ょ	6,802	116.8	126.4	134	94.3	87.6
レ タ ス	9,144	99.3	96.7	205	101.4	135.8
ね ぎ	3,528	82.0	101.6	517	135.5	143.6
ト マ ト	5,434	85.3	64.6	609	129.6	175.5
き ゆ う り	7,156	94.0	88.8	347	122.1	109.5
か ぼ ち ゃ	2,713	97.0	139.6	179	122.6	86.9
な が い も	610	69.5	101.0	500	167.7	106.6
れ ん こ ん	1,067	105.1	153.3	397	105.2	131.0
に ん に く	164	85.2	97.6	965	109.7	100.8

### 玉葱の概況

#### 需要(市場)の動き

##### 東京市場

東京都中央卸売市場の9月の玉葱の入荷販売量は9,376トン前年比97% (前月比106%)主力は北海物で、北海物の入荷量は9,042トン前年比97%、占有率は96%で前年と同じ。中国物は136トン前年比86%、占有率は2%で前年と同じ。富山物は90トン前年比642%、占有率1%前年比1ポイントアップ。兵庫物は76トン前年比161%、占有率1%前年比0.5ポイントアップ。総平均

単価はkg ¥105前年比90%(前月比95%)。産地別では、北海物はkg ¥105前年比90%。中國物はkg ¥117前年比86%。富山物はkg ¥82前年比64%。兵庫物はkg ¥137前年比67%。となっている。

10月に入り、北海物は出荷の最盛期を迎え、腐敗の発生は減少傾向となったものの、入荷量は前年を下回り、球流れは依然早生系はL大の比率が高く、L・Mが品薄高傾向となった。今年の北海物の品質は今ひとつだが、全体的な需給は品薄傾向となり、相場は月半ばからジリ高基調に転じた。産地主導の販売となった。北海物は、昨今も入荷が少なく、スーパー向けなどの注文に応じ切れず、需給は逼迫状態で、集荷に苦労している。卸では此の先、入荷増が期待出来ず需要を抑えるには値上げ止む無しの状況にある。と話している。

10月2日～20日の玉葱の販売量は5,949トン前年比99%(前月比92%)、平均単価はkg ¥118前年比112%(前月比112%)。産地別の販売量と平均単価は北海物が5,794トン前年比99%、平均単価はkg ¥118前年比112%。中國物は112トン前年比111%、平均単価はkg ¥116前年比84%。兵庫物は37トン前年比195%、平均単価はkg ¥176前年比81%。となっている。

### **名古屋市場**

名古屋中央卸売市場の9月の玉葱販売量は6,604トン前年比103%(前月比129%)で前年比、前月比ともに増となっている。主力は北海物で数量は6,525トン前年比103%、占有率は99%で前年比と同じ。兵庫物は36トン前年比6.5倍。中國物は30トン前年比100%。富山物は5トン前年はなし。総平均単価はkg ¥100前年比93%(前月比93%)。産地別の平均単価は、北海物はkg ¥107前年比94%。兵庫物はkg ¥61前年比56%。中國物はkg ¥122前年比92%。富山物はkg ¥186前年は入荷なし。となっている。

10月に入って、主力の北海物の入荷は週間300トン程度に減少したが、荷動きは凡調で、手持ち在庫は200トン前後抱えており、月前半は品薄高にはならなかったが、他市場の品薄高情報から、先高を見越して強気販売に転じた。今週には引き合いが活発化し、品薄高基調に転じた。仲卸段階では、他市場の高値相場に騒然となり、ランニングストックを始める店もあり、品不足傾向が続いている。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の9月の玉葱の販売量は3,887トン前年比119%(前月比108%)で前年比、前月比とも増となっている。産地別の販売量は、北海物が3,133トン前年比114%、占有率81%前年比3ポイントダウン。兵庫物は659トン前年比134%、占有率17%で前年比6ポイントアップ。和歌山物は74トン前年比1578%、占有率2%前年比100%。総平均単価はkg105前年比81%(前月比100%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥101前年比87%。兵庫物はkg¥124前年比58%。和歌山物はkg¥63前年比46%。となっている。

10月に入って、兵庫物はこだわり筋の注文に支えられ、品薄高傾向となった。北海物も入荷が減少傾向で、荷動きは回復基調に転じた。10日前後の天気予報は、低気圧の影響で風雨が強くなるとの情報で、鉄道、やフェリー便が乱れ、入荷減から品薄高が続くと予想され、荷動きが活発化した。月後半には、主力の北海物の入荷が細り、品薄高基調に転じた。昨今では、買手の主力は北海物で此の先、北海物の出回り量は、更に下方修正されるとの産地情報が伝わり、荷動きが活発化している。市場関係者の間では、此の先、更に入荷減となれば品不足が深刻化し、野菜特有の天井知らずの入れ揚げ相場発生の可能性に警戒心を強めている。

10月2日～20日の玉葱の販売量は2,962トン前年比102%、前月比120%平均単価はkg¥114前年比102%、前月比109%。産地別の販売量と平均単価は、北海物が2,592トン前年比123%、平均単価はkg¥109前年比111%。兵庫物は357トン前年比141%、平均単価はkg¥148前年比63%。となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の9月の玉葱販売量は、2,469トン前年比96%(前月比(111%))で、前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は2,155トン前年比92%、占有率87%前年比4ポイントダウン。中國物は146トン前年比97%、占有率6%前年比100%。佐賀物は92トン前年比384%、占有率4%前年比3ポイントアップ。総平均単価はkg¥108前年比88%(前月比103%)で前年比安、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥108前年比90%。中國物はkg¥96前年比86%。佐賀物はkg¥97前年比52%。となっている。

10月に入って、北海物の入荷は減少傾向となり、月半ばには激減したものの、相場に大きな変化はなく、保合～強保合状態が続いていた。月後半も入荷増は望み薄で、手持ち在庫も底をつき、需給バランスを考えると値上げ販売止む無しを思考していた。昨今の日量入荷は、JA北みらい、ふらのが主力の60トン前後で、品不足分を手当てするのに四苦八苦している。この程度の入荷では深刻な品不足になりかねない。

10月2日～20日の玉葱の販売量は1,534トン前年比111%(前月比113%)で前年比、前月比とも増となっている。平均単価はkg¥114前年比112%(前月比105%)で前年比、前月比とも高くなっている。

10月24日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

**【札幌市場】** 販売量122トン 弱い

北 海 20kgNT2L ¥2,800~2,200、 L大 ¥2,800~2,200、 L ¥2,800~2,200、  
M ¥2,300~1,800。

北 海 20kgDB2L ¥3,000~2,200、 L大 ¥3,000~2,200、 L ¥3,000~2,200、  
M ¥2,500~1,900。

**【太田市場】** 販売量193トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥3,000~2,700、 L大 ¥3,000~2,700、 L ¥2,700~2,500、  
M ¥2,500~2,300。

**【名古屋北部市場】** 販売量79トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,800~2,500、 L大 ¥3,200~2,700、 L ¥3,000~2,600、  
M ¥2,500~2,200。

**【大阪本場】** 販売量176トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,800~2,600、 L大 ¥3,000~2,800、 L ¥2,800~2,700、  
M ¥2,400~2,300。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,600~1,400、 L ¥2,000~1,800、 M ¥1,800~1,600、

**【福岡市場】** 販売量116トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥2,800~2,600、 L大 ¥3,000~2,600、 L ¥3,000~2,600、  
M ¥2,400~2,200。

## 供給(産地)の動き

此の先、府県産は兵庫産主力の冷蔵物だけになり、北海物の寡占化が強まる。昨今の市況高で輸入物のコストが北海物よりも割安になりつつあり、増加傾向が予想されるものの数量的には限りがある。主力の北海物の中晩生は、夏の高湿障害で球肥大が悪く、日焼け、病害の発生率が高く、この先の出回り量は、更に下方修正となる可能性が高い。従って此の先、秋冬期の供給量は予想を大きく下回り、品薄傾向が続くと予想される。

北海道産地では、収穫を終えた生産者の粗撰作業も峠を越し、貯蔵用玉葱が倉入れ待ちの状態にあると言う。貯蔵性の高い品種北もみじ2000は、例年に比べ全道的に小粒傾向で、L中心の球流れになる。と言う。

府県の早生産地では、次シーズンの市況高を期待して極早生種のマルチ張りや定植が始まっている。

全玉連(全国玉葱商業団体連合会)では10月17日、恒例の需給検討会を開催し、で10月～翌年4月の供給量を協議検討した結果、次の様に発表されている。

### 10月～4月の輸入玉葱の実績と予想量(単位トン)

	令和3年実績	令和4年実績	令和5年見込	備考
中国	163,408	131,902	140,000	
アメリカ	7,869	706	1,000	
オーストラリア	1,061	258	200	
ニュージーランド	4,349	530	1,000	
タイ	862	355	500	
その他	2,313	360		

合 計	180,626	134,111	142,700	
前年比	148%	74%	106%	

令和3年度の当初予想は161,600トンであったが、実績は19,000余トン増加した。

令和4年度は、当初129,000トンを予想したが、実績は5,000余トン増加した。

今年度は、オランダなど上記以外からの輸入があれば、予想量を上回る可能性もあるが、中国以外の国は下回る可能性が高いと見ている。

#### 令和5年度 10月～4月の供給見込み量(単位トン)

	令和3年実績	令和4年実績	令和5年見込	備考
府県即売	1,000	1,000	1,000	
府県冷蔵	21,034	15,595	20,772	
北海移出	291,302	390,551	361,892	ホクレン、北商
(小計)	310,336	407,146	383,664	
輸 入	180,626	134,111	142,700	
府県早生	50,000	50,000	50,000	
合 計	543,962	591,257	576,364	予想量
前年比	84%	109%	87%	

府県の冷蔵物は例年に比べると品質に難があり、歩留り低下で予想を下回る可能性が高い。

#### 11月の市況見通し

10月市況は、前月に続き北海物主導の販売となったが、順次極早生系から早生系種に切り替わり、月後半には品質の回復傾向となったことで、産地の出荷焦りが無くなり、中晩生の不作から先行きの出荷減が確実視され、出荷の減

少傾向が続いた。市場関係者の間では、産地の相次ぐ出荷量の下方修正で、先行きの品不足意識が台頭し、市場相場が急騰した。11月以降も北海物の供給不足と補足出来る輸入量が見込めず、市況はうなぎ上りに上昇する可能性が強い。月半ばの実勢相場は、L大、Lが¥3,500~3,000と予想しているが、納入業者は欠品回避のため、価格に拘わらず数量確保を優先することになれば¥4,000の高値が出現する可能性が強い。

追伸、私儀、今月後半も体調不良で欠勤が続き、満足な情報収集が出来なかったことをお詫びする。疑問、不審の点があれば連絡されたい。(笹野敏和記)